

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

大宜味村田嘉里(たかざと)方言の音調体系

著者	ローレンス ウェイン
出版者	法政大学沖縄文化研究所
雑誌名	琉球の方言
巻	29
ページ	67-85
発行年	2005-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/11879

た か ざと
大宜味村田嘉里方言の音調体系

ウェイン・ローレンス

1. 一般

田嘉里 (takazato) は沖縄北部の大宜味村の北部、国頭村との境界に接する人口318人、世帯数124 (2004年4月現在) の集落である。明治36年 (1903年) に親田 (ʔweeda)・屋嘉比 (jahabi)・見里 (sunbaru)¹ の三集落の合併によってでき、田嘉里という名称はその各集落名から一字ずつとって付けられたものである²。近くに、国道58号線沿いに位置する国頭村浜集落と、ウイグシクの山を隔てて位置する謝名城がある。小学校は謝名城と喜如嘉の境界近くに位置する大宜味村立喜如嘉小学校である。田嘉里川 (旧屋嘉比川) の河口からわずか1キロほどしか離れていないが、海との関係が疎遠で、伝統的な生活様式は山あいの集落のものである。

本研究のインフォーマントは宮城信八氏 (1939年生まれ) で、田嘉里の屋嘉比出身である。中頭郡西原にご在住であるが、月に1回程度、郷里に帰って兄姉などと親交を続けている。宮城氏は2000年に『シマフツトゥバ』(発音は[ɕimahutuba])と題する方言集 (収容語数6300語強) を著しており、現在、増補改訂版の準備を進めている。

2. 分節音

本稿では田嘉里方言の語形は音韻表記で提示する。音声形との対応で注目すべき点は以下のとおりである。

田嘉里方言では[Φu]と[hu]は区別される³。

/hi/は[hi]で、硬口蓋での摩擦はほとんどない。

/s, z/は/i/の前で[ɕ, ʒ]で、/e/を含むその他の母音の前では[s, z]と発音される。/z/は摩擦音として発音される。

/ci ce ca co cu/は[tɕi tɕe tɕa tso tsu]と発音される。

r と d はしばしば交替するが、「驚く」ururukun ~ udurukun (~ *ududukun ~ *urudukun) が示すように、/r/と/d/は別の音素である。「驚く」の音韻表示は/udurukun/で、語中の/d/は[t]と自由交替するが、語中の/r/は交替しない。語頭では/r/は[d]とも発音される。

促音は無気音であるが、その他の語中の/p, t, k, c/は有気音である。語頭では/p, c/は無気である。語頭の/t/は多くは有気音であるが、無気音になっている形態素は少数ある。例外的なこの無気のtを/t'/で表記する。語頭の/k/は/a/の前では有気音であるが、/w/と他の母音の前では無気音になるのが普通である。但し、語彙的に例外的に有気音にな

る場合がある。例外的な有気音の **k** を /kʰ/ であらわす⁴。この /kʰ/ は借用語に限られている可能性がある。

合拗音 (CwV) は /ʔ w/, /kw/, /gw/ があり、開拗音 (CjV) は /ʔ j/ のみである。/j/ と /ʔ j/, /w/ と /ʔ w/ は音韻的な対立をなす。声門閉鎖音が音韻としてあらわれるのは /j, w/ の前に限られる。語頭にたつ母音は非弁別的な /ʔ/ に先行されるが、この声門閉鎖音は複合語化などによって語中にもあらわれる。しかし特に丁寧な発音でなければ、語中の (/j, w/ に先行する音韻的なものを含めて) 声門閉鎖音は脱落しがちである。語頭以外の位置にあり、音節の頭にたつ /e/ は [je] と発音されるが、語頭では /ʔ e/ になる。

母音の無声化する環境は標準語のそれに準ずる。

言語資料は方言形のアルファベット順に並べ、/Φ/ は **f** の位置に、/ʔ j, ʔ w/ はそれぞれ **j, w** の位置に、そして /N/ は **n** の位置に配置した。アポストロフィー (') は音節の境界をはっきりさせるために用いたもので、音素ではない。

上付きの **A, B, C** は同系の単語の北琉球祖語における音調クラスのカテゴリ (松森2000) をあらわすもので、**田嘉里方言の音調をあらわすものではない**。田嘉里方言の音調は上線と **L** (低音調)・**H** (高音調) の記号で表示する。

3. 名詞の音調

一音節長母音語

HH

bii 堰; boo 棒; cii^A 血; cii 釣瓶; cii^A 釣り針; cuu^A 人; dee 価格; duu^C 自分, 胴体; Φaa^A 葉; Φee^A 灰; Φee^A 蠅; Φoo^C 女陰; Φuu 天秤の錘; Φuu 麩; gee^A 反抗; giu 自我, 意思; goo 壕穴; haa^A 川; hii^A 毛; •jaa^A 君; juu^A 世代; •juu^A 魚; kii^A 気力; kwaa^A 子; kwee^C 肥料; kwee^A 鋤; mee ご飯; mee^C 前; mii^A 中身; moo 荒れ地; naa^A 名; naa 貴方; nuu 何; paa^A 坂; pii^A 日 (が長い); saa^A 下; see 小さい川エビ; sii 耐寒力; soo 意識; suu^C 今日; tee 頼り (になる); too^A 平地; •waa^C 豚; •wii^A 上; zaa どこ; zii 肛門; zoo^C 門; zoo 錠; zuu^A 尾;

LH

bee 倍; bii^B 藺; buu^B 共同作業の賦役; caa^B 茶; cii^B 乳, 乳房; ee 藍; Φaa^B 齒; Φee^B 南; Φuu^B 穂; Φuu^B 幸運; gaa 根性; guu^B 友; haa^B 皮; hii^B 木; huu^B 粉; ii 絵; jaa^B 家; juu^B 湯; maa^B 広場; mii^B 目; naa^B 縄; nee 稲の苗, 稲; nii^B 荷; nii^B 根; paa 竹製の玩具の鉄砲; pii^B 火; pii^B 屁; pii^C 急須の注ぎ口; rii 利子; sii^B 巢; soo^B 竿; suu^B 潮; taa^B 田; tii^B 手; uu^B 糸芭蕉; waa 広さ; zaa 座敷; zii 字; zii 地; zuu 供えるご馳走;

その他の一音節語

HH

cui 一人; Φ ai^C 針; hui^C 声; iin 縁側; paai 旱; tai 二人; tan 木炭; tui^A 鳥; un 運

LH

bui 鞭; gai^A 蟹; gan^A 亀; jai 槍, 銚; jui^A 篩; kin^B 着物; mai 尻; mui^A 丘; mun^B 食物; nin 念(を入れる); san 棧; san 魔除けの結び; sen 千; sen 線; sun 損; wan 私; zin お金

助詞は名詞に、名詞の音調を変えないで、高く付く。

Φ uu-nu neen 運が無い

sii-nu neen 寒さに弱い(耐寒力がない)

しかし、高音調の後に高く始まる句が続く場合、後の方の句は低く発音されることがある。

gee 「反抗」 + sun 「する」 → gee sun 「反抗する」、gee-ru sui 「反抗(ぞ)するか」

kin 「服」 + kiin 「着る」 → kin kiin 「服を着る」

naa 「貴方」 -nu 「の」 + naa 「名」 -ja 「は」 → naa-nu naa-ja... 「あなたの名前は...」

zaa 「どこ」 -nu 「の」 cuu 「人」 -ga 「か」 → zaa-nu cuu-ga. 「どこの人ですか。」

二音節二拍語

HH

agi^A 陸; asa 朝; azi^A 味; ciju^C 露; cimi^A 爪; ciru^A 弦; daki^A 竹; Φ abu^A 毒蛇; Φ aci^A 蜂; Φ aja^C 柱; Φ ana^A 鼻; Φ igu ヘゴ(植); Φ ira^A 坂; Φ iru^A にんにく; Φ itu^C イルカ; Φ uci^C 艾^{もぐさ}; Φ ugi^C 陰毛; Φ uku^C 袋; Φ uni^C 骨; Φ uru^C 便所; gama^A 洞窟; habi^A 紙; hami^C 瓶; hami 特製の餌; hani^A 金属; hasa 瘡; hazi^A 風; hini^C 舟; huba^A びろう; hubi^A 壁; huga^C 卵; huri^A これ; huru 殻, 亀の甲羅; husi^A 腰, 背, 後ろ; iki^C 息; iri^A 西; isi^A 石; jama^C 罨, 仕掛け; kizi^A 傷; kuci^A 口; kugi^A 釘; kura^B 倉; maci^C 松; musi^A 虫; musu^C 蕙; naba^C 茸; nabi^C 鍋; naka^C 中; nibu^C 柄杓; nisi^A 北; numi^C 蚤; pahu^A 箱; pigi^A 髭; pisa^A 足; pusi^A 星; saki^A 酒; sani^A 種; siza^C 年上の人; sudi^A 袖; suru^A シュロ; taha^A 鷹; taru^A 誰; tira^C 太陽; tiru^C 籠の一種; tuzi^A 妻; ubu 腫れ物; umi^C 海; uri^A あれ; usi^A 牛; usu^C 臼; utu^A 音;

LH

ami^B 雨 ; ami^B 網 ; aru^B 踵 ; awa^B 粟 ; ciga^C 三味線の胴 ; cina^B 縄 ; cinu^B 角 ; cira^B 顔 ; Φaka^B 墓 ; Φana^B 花 ; haja^B 茅 ; hami^B 神 ; haru^B 角 ; hasa^B 傘 ; hata^B 肩 ; humi^B 米 ; huzu^B 去年 ; isa 医者 ; ita^B 板 ; iru^B 色 ; jaci 嫉み ; jama^B 山 ; juru^B 夜 ; kuci 遺骨 ; kumu^B 雲 ; kura^A 鞍 ; kusa^B 草 ; kusa^B フィラリア症 ; mimi^B 耳 ; mizi^A 水⁵ ; mug^B 麦 ; mumi^A 粃 ; mumu^A 桃 ; mumu^B 腿 ; muzi 里芋 ; nada^B 涙 ; naΦa 那覇 ; nuka^B 糠 ; nunu^A 布 ; pigi 竹などを削ってできたもの ; sasa^B 麻醉漁法 ; siba 魔除けの結び ; sima^B 島 ; sima^B 縞 ; sima 角力 ; sini^B 脛 ; siru^B 汁 ; tahu^B 蛸 ; tako 凧 ; tani^B 男根 ; tusi^B 年 ; tusi^B 砥石 ; uja^B 親 ; uma^B 馬, 三味線のこま ; umi 膿 ; umu^B (芋以外の)球根 ; uni 鬼 ; wara^B 藁 ; wata^B 腹 ;

二音節四拍語

二拍語は高平 (HH) と上昇 (LH) の二音調型しかないが、より長い単語になると音調の型が多くなる。二音節四拍語になると、音調の違いのみで意味が区別される次の三語がある。

miimuN(HHHH)新品 ; miimuN(LLHH)雌 ; miimuN(LLLH)見物
このことから、少なくとも三つの音調型があるといえる。

HHHH

ancoo 重曹 ; cincin 雲雀, セッカ ; cingaa 井戸 ; Φeetui 灰取り ; Φeetui 蠅取り ; ganjaa 龕を保管する建物 ; hussuu 唐辛子 ; innaa 君達 ; jakkoo 線香 ; jasee 野菜 ; kanran キヤベツ ; kanmuu 鴨 ; kiibaa 犬歯, 牙 ; k^hinbaa 金歯 ; kweeΦuu 食べ運 ; kweemuN 食べ物 ; nannaa 貴方達 ; oobee 金蠅 ; oomuN まだ熟していない果物 ; piccai^A 額 ; piitui 日取り ; saabaa 下歯 ; sansin 三味線 ; siibun おまけ ; siijoo 仕方 ; soomuN 高級な物 ; tankaa^A 向かい, 正面 ; tippuu 鉄砲 ; ukkoo 線香 ; uumuN 雄 ; Ꞥwaabee 表面 ; Ꞥwaajuu 重湯 ; Ꞥwiibaa 上歯 ; Ꞥwiizaa 一番大きい部屋 ; zunmuN 本物 ;

LLHH

accaa 明日 ; aikoo 蟻 ; anmaa^C お母さん ; anmuu 紐 ; attai 家庭菜園 ; bappee 間違い ; buusaa じゃんけん ; caacaa お父さん ; cinbuu 釣り竿 ; concon 落ち着きのない人 ; coocoo 蝶 ; coomuN ノート ; cunΦee 唾 ; cuukaa 急須 ; eezuu 友達 ; ΦaaΦaa 祖母 ; Φandu 水瓶 ; Φensaa 隼 ; Φiiraa ゴキブリ ; Φiitai 兵隊 ; gaanaa 瘤 ; gaatui 鴨 ; gaigai けちん坊 ; goojaa 苦瓜 ; gunboo 牛蒡 ; gundan 文句, 不平 ; haabui 蝙蝠 ; haanui 川藻 ; huiee 伝言 ; huugwee 化学肥料 ; iibaa ハゼ(魚) ; iiΦee 位牌 ; ippaa 遊びの

一つ;jaaruu 守宮;jacoo 灸治;janmii 兄;jassii 鱧;joonee 夕方;juubee 妾;juugwee 水肥;juurii 幽霊;juuwaa 硫黄;kaagaa 写真,役に立たない人;kankan 空缶;kinnuu^C きのう;koogin 滑稽,狂言;koosaa 拳骨;kussui^C 薬;kwakkii ご馳走;kwansoo 甘草;mansan 出産;manzuu パパイヤ;miimee 見舞い;miiwaa 庭;minbee ものもらい;mincan イヌビワ;minkan ヒラミレモン;mooΦuu しらくも;mooree 薄;muccii 餅;mundoo 争い;nankwan かぼちゃ;neenee 姉;niisee 青年;ooee 喧嘩;ooruu 青;piizaa 山羊;pinmee おやつ;rakkoo ラッキョウ;ruusii 炊き込みご飯;saaruu 猿;sannin 計算;sannin^A 月桃;seesin お代わり;siigai 沢蟹;siinoo 篩;sikkii^C ナマコ;soobee 粗悪品;soojuu 醤油;suuruu 白;suusuu お祖父さん;tāacuu 双子;taaree 鹽;taatui シロハラ(鳥);tanboo キノボリトカゲ;tanbuu 炭俵;tikkoo 腕;ukkii^C 火種;ukkin^C ウコン;uppaa おんぶ;uttii^C 一昨日;uubuu 腫れ物のある人;waakaa 私達(相手を含む);?waanii 荷の上に載せた荷;wannaa 私達(相手を含まず);zenzen 蛭;ziccuu 給料;

LLLH

Φeenaa 延縄;hannai 雷;hansui 剃刀;hiui キュウリ⁶;janmee 病気;juuwee 祝い;kangee 考え;kuuree 兄弟;meebaa 前歯;mijoo 見方;niigui 根;passii 雨戸;piitui 火取り;pinsuu 貧乏;sakkee 境界線;taajuu 鮓;teebii 松明;zibun 智恵;

LLHL

assii 昼食;iccuu 糸;

HLLL

(h)iicuu いい人;iimun いい物;

HLLLは一語ではなく、二語の連続で、後続の語句の高音調が抑えられていると考えられる(より長い例にiiΦanasii(HHL...L)「いい話」があり、Φanasii(LLHH)の高音調が抑えられる)。

LLHLはLLHHの変種であるとみられる。上で挙げたLLHHのkinnuu「昨日」、taaree「鹽」、ziccuu「給料」はLLHLとも発音される。また、助詞が続く場合、LLHLはLLHHになる。

iccuu-si-ru noon doo 糸で(ぞ)縫うんだよね ziccuu-ga ikirahan 給料が少ない

この...HL音調は第6節でまた取り扱う。

二音節語（軽音節＋重音節）

HHH

ajuu 鮎；akaa 赤；azee 味見；cigoo 都合, 辻褄；Φugui^A 辜丸；ikaa^A 烏賊；kinee^A 家庭；kirii^A 清潔；migii^A 右；pirui 旱(古)；suzoo 素性, 正体；utaa^A 歌；

LHH

araa 外；cabun 茶盆；Φijoo 日雇い；Φujuu 冬；gazan^C 蚊；gurii お辞儀；jabuu 鍼灸師；juhui 夕食；kahoo^C ぼろぎれ；kuruu 黒；majaa 猫；mamee 真前；mikuu ユゴイ(淡水魚)；muee 模合；nacii 夏；niΦee 感謝；nudii 喉；pizai^C 左；sahui 咳；sibaa 三つ口；subee 小便；tamun^C 薪；ucuu 素性；ukii 男兄弟；uzin 膳；zitoo 種痘；

LLH

Φugaa キウイフルーツ(在来種)；Φurii 稲光；Φuzoo 煙草入れ；gusoo あの世；hugui^B 汁の粕；jamun 甘藷；karii 縁起；kiΦee 気力；sibui^B 冬瓜；surii 集会；tusui 年寄り；urii 潤い；zinee 地震；

二音節語（重音節＋軽音節）

HHH

ciinsi^A 膝；Φanta^A 坂；Φingu^A 垢；Φoomi 女陰；Φuuki 流行性の風邪；Φuutu フトモモ(植物)；gatta^C バッタ；hanza^C 蔓性植物；huubi 賞品；inza 奉公人；k^hoori 行李；k^hoori 氷；kun^hci^A 体力, 持久力；nanma^C 今⁷；paai 旱；paani ハイ(爬虫類)⁸；rappa ラッパ；sinzu^C 墓(古)；ukka 借金, 負債；

LHH

deeku ダンチク；eezi 合図, 挨拶；haara^C 瓦；jaaru 雨戸；juuki 徹夜；juuki^C 手斧；koosi^C 疥癬；maaga^C 馬鋤；maaga 孫；maasu^C 塩；puusi ヒヨドリ；saagi 白髪；saami^C 虱；siibi 辛苦；siigu 小刀；siiri どぶ, 溝；siiza 年上の人；sooga 生姜；sooki^C 籠；suuΦu 勝負；tèeci^C リュウキュウシャリンバイ；uuki^C 桶；uunu 斧；•weemi 降参；zaama 途方にくれること；ziiju^C いろり；

LLH

anda^B 油; bicci ジャコウネズミ; biija^B 菰; bingu い草; densi レイシ; cikkwa ボラ;
 Φooca 包丁; Φooki 箒; Φootu^B 鳩; gooru 車輪; gunza 鯨; gwansu 先祖; haami^B
 山亀; hinna 綱, 縄; hunba^B 脰脰; ingi^A 刺; inna^B 貝(総称); inni^A 胸; innu^B 蓑;
 inzu^C 用水路; joora^B 腰; kunbu^C 蜜柑類の総称; kunza 聾者; micca^B 土; nuuci^B 命;
 ooda もっこ; ooΦa 葉野菜; ranpu ランプ; saani 白蟻; seeci 才知; seeku^B 大工;
 siija 寒気; sinka 人手; teeΦa 冗談; teeΦu 台風; tuuru ランプ; unga^B 男; ungi 恩
 義; uttu^B 弟; ?weeha~?weeka 親戚; ?weeku^B 權; •wencu 鼠;

現代田嘉里方言に撥音で始まる語形はないが、歴史的に撥音が語頭にたった時代があったと思われる。inna「貝」, inni「胸」などは次のようにその祖語形から変化してできたと思われる。

*mina ^B	>	*Nna	>	inna 貝
*mino ^B	>	*Nnu	>	innu 蓑
*mizo ^C	>	*Nzu	>	inzu 用水路
*mune ^A	>	*Nni	>	inni 胸
*nigi ^A	>	*Ngi	>	ingi 刺

祖語形の音調は様々であるが、田嘉里のこの語形はすべて音調が LLH 型になっている。挿入母音 i は形態素ではないから、音調型を決定する要素ではないと考えられる。むしろ、語頭に撥音があった歴史的な段階において、この /N/ が高音調を支えられなくなったために、低起音調になったという説明が考えられる。なお、HHH の inza「奉公人」の語頭の i は語源的な母音なので、高起音調には差し支えはなかった。

重音節＋軽音節の単語で LHH 音調のものは、LH になっている重音節はすべて長母音を含むものである。これは田嘉里方言の一般的な特徴のようで、語末では上昇音調を担う音節には制限はないが、語中では上昇音調は長母音音節に限られるようである。

三音節三拍語

HHH

agari^A 東; aniku ^{うえ} 釜; cimagu 蹄; cizimi 太鼓; hibusi^A 煙; jarabu^A テリハボク;
 nikumi^A にきび; sigutu 仕事; tamasi^A 土産;

LHH

amizi 飛ばない種の蛍; arari^C アダン; ciburu^C 頭; ciΦaΦu つわぶき; darami 晩酌;
 dusibi 友; gamaku^C 腰; gasami 渡り蟹; gasisi^C ウニ; gazami^C 蚊; gusani^C 杖;

hanibu 山葡萄; harazi^C 髪; humiru 水鶏; hutabi 今年; hutuba^C 言葉; kucibi^C 疣;
 kwaharu 赤釣魚翁^{あかしょうびん}; mimiza^C 蚯蚓; nibutu 腫れ物の一種; tabaku たばこ; tamasi
 ~tamasii^C 魂; unagi^C 鰻; warabi^C 子供; zikumi ヤブニッケイ; ziziki (冬場の)薄;

LLH

asiza^B 下駄; Φarami^B 魚の卵⁹; kukuci^B 癩癩; namasi 刺身; nuhugi 鋸; nusuru^B
 盗人; sigata 姿; warabi^B 蕨;

田嘉里方言の三音節三拍語の音調はきれいに祖語の三つの音調系列に対応する。基本的に祖語の A 系列に対応する単語は高平音調に、そして B 系列語彙は語末拍のみが高い音調になっている。祖語の C 系列語彙は田嘉里方言の三拍語では LHH に対応して、二拍語では高平音調に合流しているようである。

三音節四拍以上の名詞

H...H

cizicima 辻褄; eesaci 挨拶; Φurimu^N ばか; hasigui^A 痰; irijuu^A 必要; jagusami^A 未
 亡人; jungooree テッポウユリ; ?waaciki^A 天気;

L...LHH

akkeezuu^C トンボ; anmamu ヤドカリ; appuru 飴玉; attahu 海鵜; bindaree 洗面
 器; canpuruu 油炒め料理; cikkuhu コノハズク; cinnamu^C 蝸牛; cinnukuu 里芋(畑
 の); cinpurugee でんぐり返り; deekuni 大根; Φanasii 話; Φaroozi^C 親戚; Φeegasa
 皮膚病の一つ; ganmaru いたずら; gomukwan パチンコ; harakui 三味線の弦巻き;
 hubusimi^C 甲イカ; iccibi^C 苺; kinbusimui 胸焼け; meerabi^C 若い女性; nibutaa 根
 太を患っている者; oozama 目白; sikubuu^C 粃穀; tabioka タピオカ; tinpuraa てん
 ぷら; ucukui 頭に巻くタオル; uniΦigu 羊歯; urigai モクズガニ; urizi^N 若夏;
 zinbunaa 知恵者; zuroosu 女性の下着;

L...LH

hamazii 呟; jacibaa 八重歯; kankaraa 空缶; kukumui 蕾; nabeera^B 糸瓜; nacoora^C
 海人草; niibiki 結婚; paccinga ウバタマムシ; saarami 石巻貝; sakkwabi^B しゃっ
 くり; unaagu^B 女;

複合名詞

複合名詞の前部成素の音調が高起の場合、複合名詞全体が高平音調になる。

agizima (H...H) 海から離れた集落；

akagaara (H...H) 赤瓦；akahabi (H...H) 赤紙；aka'iccibi (H...H) リュウキュウ
バライチゴ；akamajaa (H...H) 赤猫；

Φaajassee (H...H) 葉野菜；

Φanadai (H...H) 鼻汁；Φanapigi (H...H) 口髭；Φanasiki (H...H) 風邪；

Φantamici (H...H) 坂道；

Φira'ukkoo (H...H) 板香；

ΦiruΦanagi (H...H) グラジオラス (Φiru にんにく)；

giizuumun (H...H) 意思の強い人 (悪い意)；

gooripinsuu (H...H) 万年貧乏；

haa'arasi (H...H) 川からの寒気；haa'asai (H...H) 川獺；haa'asaizoozi (H...H)
川をいつも漁っている人；haa'asibi (H...H) 川遊び；haainna (H...H) 淡水貝；
haahanrui (H...H) 翡翠；haameerabi (H...H) オキナワハンミョウ；
haaunagi (H...H) 川鰻；

hakuduuru (H...H) 四角ランプ；

haziΦukibattaraa (H...H) 燕；hazimaai (H...H) 風向きが変わること；

hiiΦukugi (H...H) 産毛；

ikaaziru (H...H) 烏賊汁 (料理名)；?juuziru (H...H) 魚汁；

kiiro'iccibi (H...H) リュウキュウイチゴ；

maadaki (H...H) 真竹；maajamun (H...H) 山芋；

meegatta (H...H) イナゴ；

sanigaari (H...H) 作物の全滅；sanimumi (H...H) 種粃；sanimun (H...H) 種物；

tangama (H...H) 炭焼き釜；tanjama (H...H) 炭焼きの山；

tuumaai (H...H) 遠回り；tuumigui (H...H) 遠回り；

ucibooki (H...H) 内用の箒；uciumi (H...H) 内海；

前部成素が低起音調の場合、その複合名詞の前部成素は全低になり、原則として後部成素は本来の音調を保つ。

araasigutu (L...HHH) 外での仕事；araaumi (L...HH) 外海；

bingudaa (L...H) い草の田んぼ；

cinbuudaki (L...HH) 布袋竹^{チク}；Φookidaki (L...HH) 琉球竹^{チク}；jamadaki (L...H) 琉
球竹；simadaki (L...H) 琉球竹；sookidaki (L...HH) 真竹；

Φaaisa (LLLH) 歯医者；Φaamoo (LLHH) 歯のない人；Φaamun (LLLH) 刃物；

Φacimaaga(L...HH) 初孫；Φacimu_N(L...H) 初物；
 ΦaizuuΦu(L...HH) 走り競争；
 Φanabaci(LLLH) 花鮒；Φanagi(LLH) 花木；Φanagumi(LLLH) 神に奉げる米；
 Φanaikki(L...H) 花生け；Φanazaki(LLHH) 花酒；
 Φeehazi(LLHH) 南風；
 Φiitaigurii(L...HH) 敬礼；
 hiicicika(LLHHH) 啄木鳥；
 jaabooki(L...H) 内用の箒；jaabusin(L...HH) 新築工事；jaaΦukijuuwee(L...LH)
 落成祝い；jaakinee(LLHHH) 家庭；jaasigutu(L...HHH) 家での仕事；
 jaawaza(LLLH) 家での仕事；
 jamamumu(L...H) 山桃；jamanuhugi(L...H) 伐採用の鋸；jamaunagi(L...HH)
 アオヘビ；miccaunagi(L...HH) 田鰻；
 juugweeuuki(L...HH) 水肥用の桶；
 kunbunusuru(L...HH) 蜜柑泥棒；min_Nkannusuru(L...HH) 蜜柑泥棒；
 kurajamadi(L...HH) 雀；
 mansanjuuwee(L...HH) 出産祝い；niibikijuuwee(L...LH) 結婚祝い；
 miiΦagizaa(L...H) 薄くておいしくないお茶；miigussui(L...HH) 見て身のため
 になるもの；miimajuu(LLLLH) 眉；miinada(LLLH) 涙；
 mizigami(LLHH) 水瓶；miziganmaru(L...HH) 水遊び；mizimaai(L...H) 水見
 回り(田圃に水が充分張っているかどうか)；miziuuki(L...HH) 水桶；
 namahaza(LLHH) 生臭さ；namamizi(LLLH) 生水；
 piibasi(LLHH) 火箸、飲まず食わずの生活をしている人；piidama(LLHH) 火の玉；
 piiganmaru(L...HH) 火遊び；piimaai(LLLLH) 火回り；
 piizaaziru(L...H) 山羊汁；piizaazisi(L...H) 山羊肉；gunzazisi(L...H) 鯨肉；
 sotobooki(L...H) 外用の箒；
 subebuku(L...HH) 膀胱；
 taamaai(L...H) 田の見回り；taaumu(LLLH) 田芋(水田の)；taaunagi(L...HH)
 田鰻；taazikkooi(L...HHH) 田仕事；
 taccibooca(L...H) よく切れる包丁；
 tiisaazi(L...HH) 手拭；tiizooki(L...H) 取っ手付きの箒；
 unaagucuu(L...HH) 女の人；ungacuu(L...HH) 男の人；
 ziizakkee(L...HH) 土地の境界線；

-mun「物・者」が低起の前部成素に続く場合、複合語の語末拍のみが高くなる。

L...H

Φurumu_N 古物；gaazuumu_N 我の強い人；kunzimu_N 聾者；miimu_N 見もの；
nagamu_N 蛇(総称)；naimu_N 生り物；nuhuimu_N 残り物；pinsuumu_N 貧乏人；
wahamu_N 若者；watu_N 内臓；

但し、「雌」miimu_N (LLHH) は例外である。「馬」uma、「蛸」tahu に mii- が付くと、mii^uma「雌馬」、mii^utahu「雌蛸」になることから、「雌」mii- で始まる複合語は ...LHH (語末二拍高音調) になるようである。

前部成素が高起の単語にもかかわらず、複合語が低く始まるものには次の語例がある。

asaciju (LLHH) 朝露；asaninbi (L...H) 朝のうちにまた寝ること；

asasigutu (LLHHH) 朝の仕事；

haanui (LLHH) 川藻；

Φucibaa (LLHH) 蓬；

macigii (LLHH) 松；macinaba (LLHH) オオタケ；

meebaa (LLLH) 前歯；meedaki (LLHH) 抱っこ；meegoosaa (L...HH) 拳骨；

meesikumi (LLHHH) リハーサル；

nabibisii (LLLHH) 鍋敷き；nabiΦingu (LLHHH) 鍋底の煤；nabitui (LLHH) 鍋取り；

nahabaja (LLLH) 中柱；nahazaa (LLLH) 表の二番目の座敷；nahaziru (LLHH) 三味線の中弦；

sizahata (LLLH) 年長者；

haa-「川」で始まる他の複合語がすべて高く始まることから、haanui は単なる例外とみざるを得ないであろう。しかし、Φuci, mee, nabi, naha, siza は散発的な例外ではないようである。これらの単語は全て(北)琉球祖語で C 系列の音調の語彙である。二拍語では、祖語の A 系列と C 系列の語彙は田嘉里方言では HH 音調になるが、より長い単語であると、A 系列の語彙は高平音調であられ、C 系列のものは末尾二拍のみが高い音調になる。asa, Φuci, mee, nabi, naha, siza が複合語の中で低く始まるということは、これらの単語は末尾二拍のみが高い音調であり、音韻的に高平音調と区別されていると考えられる。すなわち、音声的に HH の二拍語の中に、高平と末尾二拍高の二つのクラスの単語が入っており、複合語の前部成素になると初めてその違いが顕在化するのである。なお、前部成素が語源的に C 系列でありながら、複合語が高起になるものには次の例がある。

kucigansui (H...H) 言い負けしない人；但し kucimaai (L...H) 言い訳；

kweeuuki (H...H) 肥桶；

tira'ami (H...H) 日照雨 ; tirapaaiami (H...H) 日照雨 ; 但し tirabui (LLHH) 日向ぼっこ ;

umiasai (H...H) 潮干狩り ; umipuusi (H...H) イソヒヨドリ ;

usubaa (H...H) 臼歯 ;

ここでは、複合名詞の前部成素になっている名詞が高平型に変化していると考えられる。

今までみてきた田嘉里方言の名詞の音調を総合すると、名詞は3型で、下の表に示すように、a 音調、b 音調、c 音調と分類できる（小文字の a, b, c を使って、祖語の A, B, C 系列と区別する）。

(○=拍)

a 音調	○̄	○̄○̄	○̄○̄○̄	○̄○̄○̄○̄	(全高)
b 音調	○̄	○̄○̄	○○̄○̄	○○○̄○̄	(語末拍高)
c 音調	○̄	○̄○̄	○○̄○̄	○○○̄○̄	(語末二拍高)

複合名詞の中には a, b, c 音調のほかに、語末まで続く高音調が三拍以上つづく (L...L-H...H) 音調もあるが、これは b+a と c+a の複合名詞にみられるもので、後部成素の元の音調が生かされるために生じる音調である。

新語は c 音調になる傾向が強いといえる。例に appuru 「飴玉」、coocoo 「蝶」、coomen 「ノート」、khaban 「鞆」、khesigomu 「消しゴム」、kburejon 「クレヨン」、ooturubai 「オートバイ」、(cf. ooturubai 「ボートしている様子」)、tabaku 「たばこ」、tabioka 「タピオカ」、zuroosu 「女性の下着」などが挙げられる。

4. 動詞の音調

H...H

ΦuN 振る ; kuN 来る ; suN する ;

iin 言う ; iin 入る ; hoon 買う ; kiin 着る ; kuun 閉める ; kween 食う ; maan 回る ; moon 舞う ; moon 燃える ; noon よこす ; saan 触る ; saan 鍋の水を切る ;

cikun 殴る, 突く ; Φansun 外す, 済ます ; higuN 引掛けまわす, 平和を乱す ; ikun 行く ; jakun 焼く ; jubun 呼ぶ ; kumun 汲む ; kumun 履く, 踏む ; maasun 亡くなる ; mingun 濁る ; moosun 燃やす ; nubun 上がる, 登る ; pikun 引く ; sakun 咲く ; sinnun 死ぬ ; tubun 飛ぶ ;

agiin 持ち上げる ; cikeen 使う ; hittiin 捨てる ; maariin 生まれる ; makiin 負ける ; ubiin 薪をくべる ; ubiin 汁を薄める ; useen 軽蔑する ; usuun 押す ; usuun 埋める ;

utaan 歌う ; uteen (鶏が) 歌う ;

aΦanakun 横になる ; hurusun 殴る, 殺す ; maarasun 回す, 転がす ; sinnasun 殺す ; takubun 畳む ; tubasun 飛ばす ; tunugasun 突っ走る ; urabun 大げさに自分の不幸を訴える ;

nukumiin 暖める ; usubiin 伏せて重ねる ;

kunpaakasun 踏む ; kunpisigun 踏み殺す ; kuntoosun 踏み倒す ; pikkoosun 引き抜く ;

次の L...H 音調の動詞は、一音節動詞は語末拍のみが高く発音され、二音節以上の動詞では語末音節が CV_N の場合、普通の発音では語末音節が高くなるが、語末拍のみ高く発音される音調も認められる。二音節以上の動詞で語末音節が CVV_N の場合、語末拍に限って高くなる。

L...H

an ある ; Φun 降る ; Φun 掘る ; mun 漏る ; nan 実が生る ; tun 取る ; un 居る ; biin 座る ; hiin 蹴る ; kiin 切る ; kuun 噛む ; kween 太る ; miin 見る ; moon いらっしやる ; neen 揺れる ; neen 萎える ; neen 無い ; noon 治る ; noon 綯う ; noon~nuun 縫う ; oon 喧嘩する ; piin 干る ; siin 饑える ;

cukun 作る ; hakun 書く, 搔く ; jamun 痛む ; janbun 故障させる ; kamun 食べる ; keesun 返す ; kunsun 崩す ; maccun 待つ ; mankun 混ぜる ; mankun 手招きする ; mingun 回転する ; muccun 持つ ; nasun 産む ; ninbun 眠る ; nugun 抜く, (写真を) 撮る ; numun 飲む ; pigun 冷える ; pigun 削る ; pussun 干す ; sakun 裂く ; susun 拭く ; taccun よく切れる ; tagun 引き抜く ; toosun 倒す ; uccun 打つ ; uigun 泳ぐ ; umun 思う ;

abiin 呼ぶ, 叱る ; cimiin 詰める ; Φingiin 逃げる ; heeriin 転がる ; hiziin 削る ; imiin 催促する ; kangeen 考える ; keeriin 横になる ; kooriin 壊れる ; kunziin 崩れる ; nuguun 拭く ; nureen 叱る ; sagiin 吊るす ; suruun 集まる ; tumiin 留める ; ubiin 覚える ; uriin 下がる, 降りる ;

acirasun 加熱する ; cirubun 交尾する ; dugeerasun 転ばす ; Φaramun (動物が) 妊娠する ; izasun 出す ; kubusun こぼす ; mingwasun 回転させる, 濁す ; pikkoosun 破く ; siramun 涼む ; sukkwasun 通り過ぎる ; udurukun 驚く ; urusun 下ろす ; wahasun 分ける ;

hasigiin 重ねる, (人間が) 妊娠する ; nukutamiin 暖める ; sippiriin 小さくなる ;

LLH...H

inkeen 召し上がる；

hinmaarasun 蹴り転がす；hippankun 蹴つ飛ばす；kikkoosun 挟り取る；kingoorasun 大きく挟り取る；sippirakun 押しつぶす；sittoosun 切り倒す；t'akkeerasun 叩きこぼす；t'akkubusun こぼす；t'akkurusun 殴り殺す；t'appirakasun 叩き潰す；

複合動詞

H...+H...→H...H

cikee-kurusun 酷使する；ciki-agiin 突き上げる；ciki-kurusun 打ち飛ばす；kwee-Φansun 食いはぐれる；piki-maasun 引き回す；urabi-t'akkwasun 大げさに自分の不幸を訴える；

H...+L...→H...H

Φui-mingwasun 振り回す；jubi-tumiin 呼び止める；kwee-toosun 食いつぶす；piki-sakun 引き裂く；usi-dugeerasun 押し倒す；

L...+H...→L...L-H...H

abii-tunugasun しゃべりまくる；kami-Φansun 食いはぐれる；mii-agiin 見上げる；mii-hittiin 見捨てる；mucci-agiin 持ち上げる；tui-Φansun 取り損ねる；

L...+L...→L...L-H...H

abii-kunsun しゃべりまくる；acirasi-keesun 温めかえす；cukui-janbun やり損ねる；haki-mingwasun 掻き回す；haki-tumiin 書き留める；mii-kiin 見捨てる；mii-wahasun 見分ける；ninbi-sukkwassun 寝過ごす；tui-sukkwassun 取り損ねる；ubi-zasun¹⁰ 思い出す；umui-cimiin 思いつめる；umui-zasun¹⁰ 思い出す；

単純動詞は基本的に二つの音調型に分かれ、高起のものと低起のものがある。高起の動詞は a 音調であるが、さて、低起のものは b と c のどちらであろうか。低起の動詞から派生する転成名詞が b 音調（kangee 「考え」、pigi 「竹などを削ってできたもの」、surii 集会）であることから、低起の動詞は b 音調であると察せられる。又、LLH...H 調の動詞は複合動詞として音調が付与されているであろう。inkeen は *nkeen に由来すると考えられるから、第 3 節で述べたように語頭の撥音が低くなり、前に i が挿入されることによって LLHHH 音調が生じたと考えられる。inkeen は通時的には複合動詞ではないが、共時的には複合動詞扱いを受けている可能性がある。

形態論上、複合動詞でありながら、例外的に L...H 音調の動詞に次のものがある。

piki-taguN 引き抜く； piki-urusuN 引き下ろす；

この二つの動詞は piki-を前部成素にもっている。pikuN「引く」は a 音調の動詞で、通常これを前部成素にもっている他の動詞（pikkoosuN「引き抜く」、piki-maasuN「引き回す」、piki-sakuN「引き裂く」）は規則的に a 音調になっている。しかし、上に挙げた例外は (i) b 音調であり、(ii) 複合動詞の音調（後部成素が全高）ではなく、単純動詞の音調になっているという二点で不規則的である。

5. 形容詞の音調

H...H

acihan 厚い；akahan 赤い；arahan 荒い；assan 浅い；attarahan 大切である；habahan 香ばしい；hassan 軽い；hatahan 密である；huuhan 小さい；jassan 安い；karazuuhan 食欲旺盛である；kiibeehan 気がはやい；kurahan 暗い；miihan 新しい；oohan 青い；pissan 薄い；suuzuuhan にぎやかである；tuuhan 遠い；ubuhan 重い；wassan 悪い；

L...HHH

acihan 暑い；aΦahan 塩味が足りない；anmahan 体調がなんとなく悪い；biiraahan 不潔っぽい；cuuhan 強い；Φeehan 速い；ΦukahāN 深い；gunahan 小さい；guruhan すばしっこい；ibeehan 狭い、(服が)小さい；icchan 痛々しい；icunahan 忙しい；ikirahan 少ない；ingahan 苦い；ingoohan 痒い；inkahan 短い；isoohan 楽しい、うきうきしている；jaahan ひもじい；joohan 弱い；hazoohan 風が強い；kucihan 苦しい；kurahan 美しい；kusahan 臭い；maahan おいしい；magihan 大きい；nagahan 長い；niihan 遅い；nukuhan 暖かい；piihan 寒い；pikuhan 低い；sakuhan 脆い；sibuhan 渋い；siihan 酸っぱい；sirahan 涼しい；suuzuuhan 塩辛い；takahan 高い；uΦuhan 多い；ukahāN おかしい；ukkaahan 危ない；umussan おもしろい；ureemaahan 羨ましい；uturahan～uturuhan 怖い；wahasāN 若い；wahasāN おかしい；?wendaahan 優しい；

形容詞に語末三拍を高く発音する音調があるが、これは語幹の末尾拍が高く、活用語尾が高く続くと解釈できるもので、b 音調に相当するとみられる。他の活用形も同様に語幹末拍から高く続く。

cuuku 強く； inkaku 短く；

他方言との対応から、jassan「安い」と pissan「薄い」は低く始まる音調が予想され

るが、語幹の末尾拍が無声子音のため、高音調が前の拍に移動したと考えられる。
jasimu_N「安物」、pisimu_N「薄い物」の音調から、これは共時的な過程であるとしなければならぬ。

6. 先行報告にみられる c 音調

田嘉里方言の沖縄言語センター調査資料（200語）は本稿の資料とほぼ一致するが、主な違いは、c 音調の音声形である。沖縄言語センター調査資料では c 音調の単語の多くは...HL と、低く終わる音調になっている。

HL : Φai^c 針 ; ?waa^c 豚 ; zoo^c 門
 Φuni^c 骨 ; Φuru^c 便所 ; nabi^c 鍋 ; tira^c 太陽 ; umi^c 海
LHL : warabi^c 子供
LLHL : ci^cnnami^c 蝸牛

沖縄言語センター調査資料のインフォーマントは1941年生まれの方であり、本稿のインフォーマントも1939年生まれなので、この発音の違いは世代差に因るものではないといえよう。しかし、本研究のインフォーマントの出身と違い、沖縄言語センター調査資料のインフォーマントは田嘉里の見里の出身である。田嘉里は、国道58号線から入って、美里、親田、屋嘉比の各区域の順に田嘉里川を溯って行く。本稿の資料と沖縄言語センター調査資料の違いは美里と屋嘉比の方言の差であると考えられよう。第3節でみたように、屋嘉比の方言の c 音調の具現形として LLHL もないでもないが、美里のことばの c 音調語の中には下がらない音調も見出せる。沖縄言語センター調査資料の hini「船」、ciburu「頭」がその例がある。どちらの音調が古態かは方言地理学と比較方言学の両側面から究明しなければならないことであり、今後の課題である。

7. 結論

田嘉里方言の語彙は基本的に三つの音調型に分けられるといえる。

a 音調 〇: 〇〇 〇〇〇 〇〇〇〇 (全高)
b 音調 〇: 〇〇 〇〇〇 〇〇〇〇 (語末拍高)
c 音調 〇: 〇〇 〇〇〇 〇〇〇〇 (語末二拍高)

基本的に3型であるが、派生語には別の音調も存在する。例えば、複合動詞と一部の複合名詞は後部成素全体が高くなる音調 (L...L-H...H) になる。acirasikeesaa「同じ話をいつも繰り返す人」という名詞は acirasi-keesun「温めかえす」という複合動詞か

ら派生してできた名詞なので、複合動詞の音調を受け継いでいるのである。

助詞や活用語尾は高く付くが、複数語尾（-t'a, nkaa）も同様に、名詞の音調を変えないで高く続く。

kuuree-t'a 兄弟たち	wahamuN-t'a 若者たち
t'aacuu-t'a 双子たち	tuzi-t'a 奥さんたち
tusui-nkaa 年寄りたち	uja-nkaa-t'a 親たち

謝辞

本稿は2003年12月6日の沖縄言語研究センターの定例会で発表した内容を改訂敷衍したものである。

インフォーマントになって下さり、2003年8月25日から同年12月15日の間、11回（約16時間）に亘り快く質問に応じて下さり、何回も同じ単語を繰り返し発音し、私の拙い発音を一々直して下さった宮城信八氏に対して記してお礼を申し上げる。

- ¹ sunbaru は「潮原」が原義であろう（大城・名嘉他1998：63）。
- ² 仲宗根（1987 [1934]）にみられる高里は同じ集落である。
- ³ 宮城（2000）では [hu] は「フュ」と表記されている。琉大方言研究クラブ（1970：18）は田嘉里方言の「粉」を [Φu:] と掲げているが、筆者の調査では [hu:] であるし、宮城（2000）でもそうになっている。
- ⁴ 田嘉里の隣の謝名城の方言も有気・無気の対立があるようである。大城茂子氏（1921年－2000年）を1998年11月12日に調査したとき、k'in「着物」、k'in「金」；t'asara「二皿」、thān「炭」の発音がえられた。なお、謝名城の隣の喜如嘉方言にはこの対立はないと報告されている（新里1996）。
- ⁵ 喜界島（上野1992：69）から与那国（平山・中本1964：187）まで「水」はA系列である。沖縄方言である首里方言や今帰仁方言においても、「水」がA系列の音調になっているが、「水」を前部成素としてもっている複合名詞では「水」がB系列の形態素のような振る舞いを示す複合名詞は少なくない。田嘉里方言の「水」の音調はこのB系列の音調に対応する。
- ⁶ 琉球方言の「キウリ」の語源は「黄瓜」とされている（池宮1993：109）が、発音からして、少なくとも田嘉里方言では「キウリ」の共時的な語構成は「木＋瓜」とみるべきであろう。
- ⁷ 「今」は奄美と八重山でC系列の音調だが、沖縄方言ではA系列に変化している。この変化はおそらく、語頭の喉頭閉鎖音がヒキガネになったと思われる。
- ⁸ ハイとはコブラ科の蛇で、奄美諸島（大島、加計呂麻島、請島、与路島）のヒャン

と模様で識別される（池原・宮城他1984：313）。田嘉里方言の **paani** は奄美諸方言のヒャン（佐仁 **pʰjaN**（狩俣2003：99）；大和兵 **hjaN**（長田・須山1977：854）；請島池地 **hjaN**（春日2001 [1974]：70）；与路 **hjaaN**（春日2001 [1975]：87）；加計呂麻島諸鈍 **hjaahjaN**（狩俣1996:41））と同系の語形であろう。徳之島伊仙町の **hjaari** <ハイ>（野原・宮城1986：98，124）をあわせると、北琉球祖語形が ***pjaani** として再建される。

- ⁹ 仲宗根（1983：416）は今帰仁方言の **paramii**「魚の卵」の語源を「腹実」として
いるが、田嘉里方言の語形と音調から、むしろ「孕む」の名詞形が語源であると察
せられる。
- ¹⁰ 後部成素は **izasun**「出す」で、複合動詞において語頭の **i-**は前部成素末の **-i** の後で
削除されるようである。

参考文献

- 池原貞雄・宮城邦治・与那城義春・当山昌直 1984.『琉球列島動物図鑑(1)陸の脊椎動物』新星図書.
- 池宮 正治 1993.『沖縄ことばの散歩』ひるぎ社.
- 井上史雄・篠山晃一・小林隆・大西拓一郎(編) 2001.『日本列島方言叢書31 琉球方言考④ 奄美属島』ゆまに書房.
- 上野 善道 1992.「喜界島方言の体言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』21:41-160.
- 大城茂子・名嘉順一・仲田邦彦・深沢恵子・池宮紀子 1998.「大宜味村謝名城・田嘉里の小地名」『南島の地名』5:13-77.
- 長田須磨・須山名保子(編) 1977.『奄美方言分類辞典 上巻』笠間書院.
- 春日 正三 2001[1974].「奄美大島方言の研究－請島・池地方言の音節について」井上・篠山他(編)(2001)所収(67-84).
- 春日 正三 2001[1975].「奄美大島方言の研究－与路島方言の音節について」井上・篠山他(編)(2001)所収(85-97).
- 狩俣 繁久 1996.「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム(下)」『日本東洋文化論集』2:1-57.（琉球大学法文学部紀要）
- 狩俣 繁久 2003.『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』『環太平洋の言語』成果報告書 A4-014.
- 新里 幸昭 1996.「喜如嘉の方言」喜如嘉誌刊行会(編)『喜如嘉誌』563-610.
- 仲宗根政善 1983.『沖縄今帰仁方言辞典』角川書店.
- 仲宗根政善 1987[1934].「国頭方言の音韻」『琉球方言の研究』65-88. 新泉社.

野原三義・宮城邦治 1986. 「徳之島の動物方言語彙」『徳之島調査報告書(4)』91-175.

沖縄国際大学南島文化研究所.

平山輝男・中本正智 1964. 『琉球与那国方言の研究』東京堂.

松森 晶子 2000. 「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から」『音声研究』4:1. 61-71.

宮城 信八 2000. 『シマフツトゥバ 大宜味村田嘉里の方言』私家版.

琉大方言研究クラブ 1970. 「「沖縄本島南部北部方言の境界」を見つけるために」『琉球方言』11号.